

2022/6/27-2

(オマケの英語居室 sounds of words) 書庫版



英語では前が front、後ろが back

上(に上がるの)が up で,下(に下がるの)が down

右が right で、左が left

「何の話しゃねえん？」

とお思いでしょうが、こうやって見渡してみると前とか上等の、どちらかという (+) 概念を表しているようなものは清音や破裂音 (軽く澄んだ音) で構成され、後ろとか下等の、どちらかという (=) 概念を表しているようなものは濁音 (重く濁った音) で構成されている様な気がします。

元々言葉というのは文字からではなく音から始まっている訳ですから古代人も耳にした時の印象から言葉にあたる音を作り出したり組み合わせたりして言語化していったのだと思われまます。

その古代人も現在の我々同様、済んで軽やかなものには前進や飛翔を感じ、濁って重量感のあるものには勾引や下降を感じ取っていたのかもしれない。

それでは right と left はどうでしょう？

この二語には上述の様な前進、飛翔と勾引、下降の対比は感じられません。何となく同等です。

ですが、right には r の巻き舌が使われ、left にはそれが使われていない処を見ると、r の巻き舌の分だけ、多少力が入っている様な気もします。何となくうっすらとですが right に軍配を上げている様な。

(ここで申し上げている right と left は思想や思潮とは一切関係がございませんので、誤解為されませぬ様お願い申し上げます。単に音の話で御座いますから)

では何故右側に多少なりとも軍配を上げているのか？無意識にせよ、ですが。

話は変わりますが赤ん坊を右利きにするのは結構大変です。

親が赤ん坊を自然に抱けば、赤ん坊の頭が左側。足が右側になります。

それは利き手が右手の人が圧倒的に多い親からすれば、利き腕の右手が自由な方が赤ん坊の世話をし易いからです。

ところが是だと頭を親の左腕で抱えられた赤ん坊の右手は親の胸側に来ますから自由が利かず、反対に自由が利く左手を動かす事になり、赤ん坊は左利きになってしまいます。

なので、赤ん坊を右利きにしようとするれば親は利き腕の右手で赤ん坊の頭を抱え、赤ん坊の左手を親の胸側にして、右手を自由に動かせる様にしないと赤ん坊は右利きにはなりません。

親にとっては結構な負担でしょう。

それでも親は右利きを選ぶ。

何故？

「世の中が右手優先の文化だから」

というのは後日の話で一番の発端の説明にはならない様な気がします。

ではそもそもの発端は何だったのか？

自分の推測によればですが、これは心臓の位置に関係している様な気がしております。

大抵の人は、心臓は左側。

心臓は heart とも心の臓ともいわれ古代から脳と同じ位に「最重要臓器」として認識されていた。

何故なら「ドクンドクン」と常時片時も休む事なく脈打ち続けてその存在を常に感じさせていたから。

その心臓を咄嗟に守るとしたら、同じ側の左手よりも反対側の右手の方が確実かつ素早く防御できたからではないかと。

それが、右（手）が優位になった理由、かな？

Right hand lightly could get defensive, then right(hand) has been given advantage?